

## 日本は対話と交流を通じて 万博を世界平和実現のきっかけにすべき

大阪・関西万博（2025年日本国際博覧会＝Expo 2025 Osaka, Kansai, Japan）の開催までおよそ1年。2025年4月13日の開幕に向け、いよいよ本格的に始動しなければならない時期になってきました。

世界では、ロシアとウクライナ、イスラエルとハマスをはじめ未だに戦乱の火種が尽きず、解決の目途が立たない状況です。

今回の万博のテーマとして掲げられた「いのち輝く未来社会のデザイン」は「いのちの大切さと『平和、への祈りが込められたものであり、サブテーマには「いのちを救う、いのちに力を与える、いのちをつなぐ」と記されています。

そして、アラブ首長国連邦（UAE）のドバイ万博で初めて本格的に採用された「テーマウィーク」を継承し、大阪・関西万博でも開催されるといいます。

今こそ日本は、大阪から世界に向けて、地球規模の課題として『平和、の大切さを発信しなければならないのではないのでしょうか。

テーマウィークに設けられた「いのちを知る」、「いのちを育む」、「いのちを守る」、「いのちをつむぐ」、「いのちを拡げる」、「いのちを高める」、「いのちを磨く」、「いのちを響き合わせる」という8つのテーマを掲げながら、智慧とアイデアを結集させ、人類がいま直面している課題の解決に役立てなければならないのです。

我が国の経済界もこのテーマに沿い、世界に向けてその存在感を示さなければなりません。

日本は政財界を挙げて、この8つのテーマを世界に発信し、対話と交流の大切さ、血の通った外交の重要性を示し、その存在感を明確に示さなければなりません。

テーマウィークの内容は、レガシー（遺産）として閉幕後に記録が残されます。

さらにそこはビジネス創出の機会としても期待されているのです。

掲げられた素晴らしいテーマに酔うことなく、世界における『平和、という大切な課題を見据え、あらゆる場面で問題提起と対話が実現できるよう、我が国の指導力に期待します。

本誌主幹

大中吉一